

平成31（令和元）年度 学校教育自己診断 分析

生徒（この学校に入学して良かった） 肯定率 84%

保護者（子どもをこの学校に入学させて良かった） 肯定率 90%

昨年度の結果と大きく変わってはいない。評価も高く、これからも、生徒や保護者から信頼される学校となることが重要である。

保護者（学校は教育情報について、提供の努力をしている） 肯定率 76%

教職員（教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている。） 肯定率 76%

保護者に対する情報提供については、一定の評価を得ていると考える。今後も保護者や地域の方々としつかりとつながりをもって学校経営を行い、その中で生徒が成長していける学校にしていきたい。

（授業関連）

肯定率 生徒 81% 教職員 75% 保護者 60%

昨年度に比べて、生徒の肯定率は6ポイントあがった。今後も「わかる授業」「できる授業」の確立をめざしたい。

（進路関連） 肯定率 生徒 85% 教職員 45% 保護者 51%

学校の進路指導について、生徒からは一定評価いただいているが、教員の肯定率が低い。学校として進路体制の見直しの影響が大きく出ているためであると推察される。また、近年、大学入試定員の厳格化の影響があるため、早い時期から、一層の進学指導の充実を図っていきたい。

（人権教育関連） 肯定率 生徒 80% 教職員 65% 保護者 80%

昨年度に比べて、生徒の肯定率は10ポイントあがり、一定評価をいただいている。今後もしじめについては、早期発見、早期対応を心掛けることを徹底し、生徒が安全で安心できる学校であるために人権教育を推進していきたい